

平成20年度スジアオノリ養殖概況

加藤慎治

平成20年度漁期は、吉野川では例年どおり天然採苗が行われた。今年度は台風等による大きな出水がなく、天然採苗は順調に行われた。生産期間中も出水による低塩化もなく、藻体の生長も良好であったため、例年に比べ好調な生産となった。生産量は漁期全体としては平年を大きく上回った。

しかしながら、品質面では製品へのワレカラ等の混入が問題となり、今後の異物対策が重要であると考えられた。

1 人工採苗用の母藻の生産と配布

大津、川内、応神町、徳島市第一、渭東、徳島市辰巳および今津の各漁協へ母藻を配布した。配布母藻は吉野川産広域温度対応株(Y1124)であった。

2 平成20年度漁期の共販結果

図1に平成20年度、19年度の徳島県漁連共販数量を、図2に年度別共販数量と平均単価の推移を示した。共販数量は順調な生産を受け、前年比132%の100トンに達した。価格は近年比較的高値で推移しており、数量増加の割に高水準であった。平成20年度漁期の共販実績は数量100トン、金額6.7億円であった。

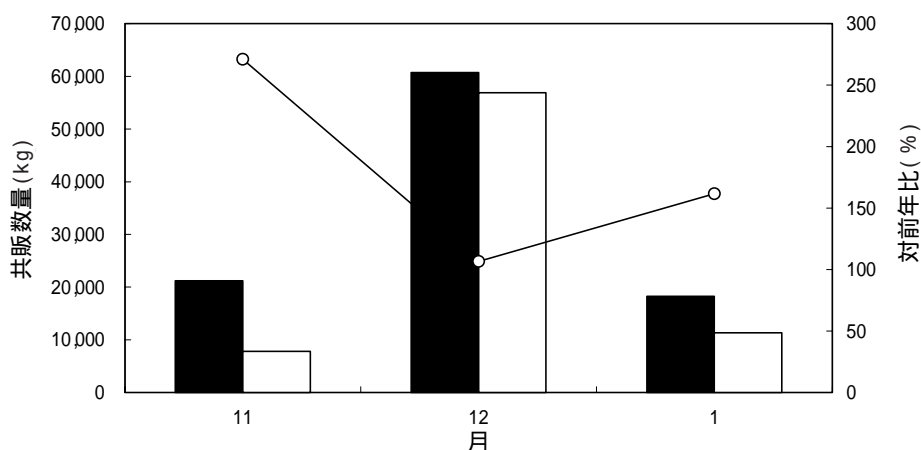


図1 月別共販数量の推移。 ，平成20年度； ，平成19年度； ，対前年比

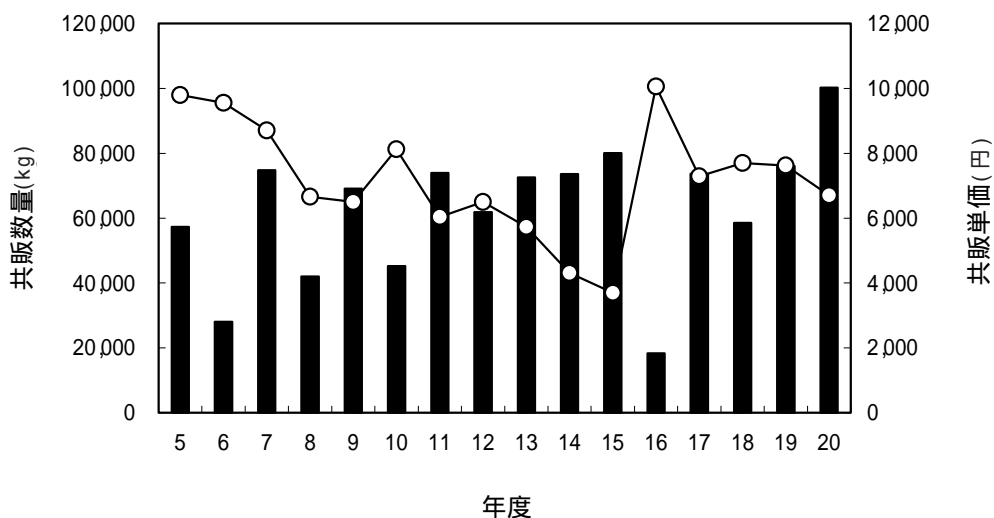


図2 年度別共販数量と平均単価の推移。 ，共販数量； ，共販単価